

# 第23回日本遺伝子細胞治療学会学術集会 (JSGCT 2017 岡山) を終えて

The 23rd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy

会長 那須 保 友 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 泌尿器病態学)

Yasutomo Nasu (Department of Urology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

この度、岡山コンベンションセンターにおいて2017年7月20～22日の三日間、第23回日本遺伝子細胞治療学会学術集会を会長として開催いたしました。テーマは「今、着実に実り始めた遺伝子治療 Gene Therapy : Seeds and Fruits」です。第19回の本学術総会が藤原俊義教授 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学) の会長によって主催されて以来、2回目の岡山での開催となります。

本領域は実用化という観点において20数年前、社会から大きな期待を寄せられながらも種々の困難を経験し、低迷期といわれた時期を経験しました。しかしこの間、研究者の情熱と粘り強い努力によりサイエンスとして発展し、ここ数年特に遺伝病の領域において目覚ましい臨床的成果が得られております。また、前立腺がんをはじめとして本邦発 (オリジナル) の遺伝子治療も臨床研究、治験も行われており、こちらも着実に成果が上がっております。昨年の本学術集会には学会会員数を大幅に超える参加者を記録しており、多くの企業関係者の参加が得られております。米国、欧州においてはその傾向は日本に先行していることは言うまでもなく、基礎研究の成果が着実に実り実用化が活発化し始めていることを実感しております。今回のトピックスはゲノム編集学会との合同でのシンポジウムを開催したことであります。ゲノム編集のヒトへの応用は現在最も注目されている領域であり活発な討議がなされました。ゲノム編集はその技術の簡便さから爆発的に研究が拡大しております。特に、胚細胞を対象とした研究には倫理的課題が多く残されており本学会を中心に提言書を発表したばかりであり、政府内において検討が開始されています。

学会員数300名の内、泌尿器科医は10名以内という状況であり、基礎研究者や内科系を主体とした臨床科 (血液内科、小児科、神経内科、循環器内科等) の会員で構成されており、通常の泌尿器科領域における学

会の運営とは勝手が違うというのが実感でした。教室員総出の準備というよりは、会長の思い入れと裁量で構成されたプログラムに沿って、理事により構成される組織委員会で詳細を詰めていくというものです。例年、欧州ならびに米国遺伝子細胞治療学会の会長を招請しますがその段取りもすべて学会本体が手配するというものです。例年、プログラムの大枠は固定されておりますが会長の専門領域の部分で独自色を出すことができます。岡山大学は長年、前立腺がんの遺伝子治療に従事しており、固形がんの遺伝子治療にハイライトを当てることができました。また、抄録集ならびに発表言語は英語でありこのあたりも通常の泌尿器科関連の学会とは相違するところですが、今回は特に、前回岡山で開催した際の事務局長であった新医療研究開発センターの田澤 大准教授が全面的に協力してくださったことが大変ありがたかったことであります。ご許可いただいた藤原俊義教授を含めお二人にはこの場を借りて感謝を表したいと思います。

コンベンション誘致に積極的な地元自治体 (岡山市)・経済界 (岡山経済同友会) の協力のもと種々のおもてなしを好評のもと行うことができました。岡山駅改札口には「歓迎」の掲示がなされ、岡山駅から会場に直結する通路にはおしゃれな垂れ幕が設置されました (写真1)。岡山市観光コンベンション協会のご紹介と全面的な協力で岡山城天守閣を貸し切ったの会長招待会を開催することができました (写真2)。海外からのゲストが一人でも参加することが使用許可の必須条件でありましたが、10名近くの海外からの参加者があり条件を無事クリアすることができました (写真3は、岡山城天守閣入り口で待機する教室スタッフならびに協会スタッフ)。岡山で2009年第97回日本泌尿器科学会総会を開催した際にはこの天守閣前の広場を使用し会員懇親会を実施しましたが、当時は天守閣の内部は利用できませんでした。



写真1



写真2



写真3

さらには開催学会のロゴをあしらった地ビールの「独歩」(宮下酒造), お土産用の吉備団子(廣榮堂本舗), 岡山大学オリジナルの日本酒「おお岡大」など地方開催ならではの良さを味わっていただきました。また、会員懇親会では岡山の地酒コーナーを設けました。特に、吉備団子は一個一個に学会・岡山大学のロゴ、開催日を特殊な技術を使用して印刷しており、座長のお礼とするとともに会場でも販売しました。手ごろな価格と職場へのお土産に最適ということでアツという間に用意した200個は売り切れました(写真4)。岡山マラソンの際には「エネルギーきびだんご」としてマラソン中の選手にふるまわれたことで話題になりま



写真4



写真5

したが、廣榮堂本舗の社長の武田浩一さんとは岡山経済同友会の会合にて紹介いただいたことがご縁でありました。

後日、医学部の各教室にお礼の意味をこめて吉備団子を配りましたが大変好評であり、各教室主催の学会でも今後利用したい旨の問い合わせがたくさんありました。

学会を誘致することは単に学術的な側面は言うに及ばず、社会的側面としての意義が大いに存在することを実感した学会でもありました。今後の学会運営に大いに活用したいと思います。

今回は国立成育医療研究センターの小野寺雅史先生（成育遺伝研究部 部長）を会長として東京で開催されます（写真5）。

Urology Today 学会好事（平成30年2月発刊予定）を一部改変して作成。

---

平成29年9月3日受稿  
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1  
電話：086-235-7284 FAX：086-231-3986  
E-mail：ynasu@md.okayama-u.ac.jp